

白帝 心書



DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

使用上のご注意

この本は東方プロジェクト様の『秋静葉、稔子』の二次創作です。厳密に原作の設定を再現しているわけではございませんので、そういった作品に合わない方にはおすすりめできません。

また、成年向けの描写がございますので18歳未満の方のご購入はご遠慮願います。同様に、未成年のご家族、彼女、嫁などの手の届かない場所に保管してください。

ご閲覧後のキャラクターのイメージ崩壊などの被害に関しましては、当方は保障いたしかねますので、自己責任でよろしくお願いいたします。

それでは、上記を踏まえた上でお楽しみください。

静助
見いや

これが御山の
ヌシの木じや



御山に嫌われん
ようにしつかり
挨拶しとけ

石くればかりの
この荒地に
雄々しゅう
立った御神木じや



わしら山でままを
得る者もひもじい
時もあるうが

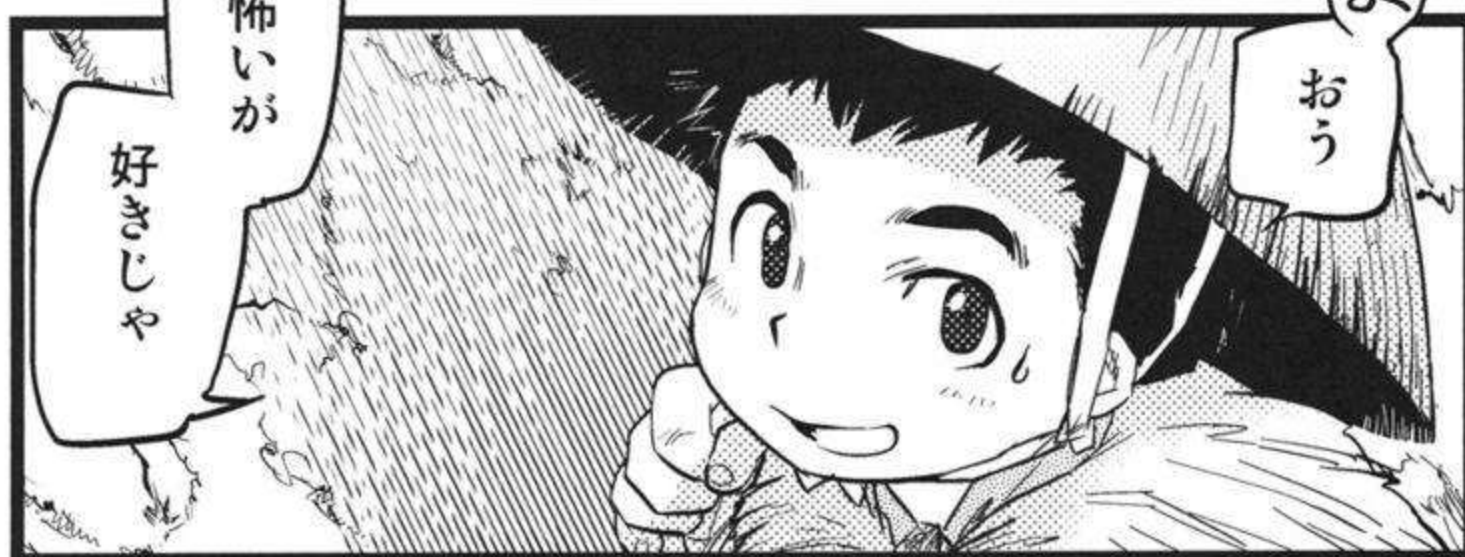
ヌシ様を
見習うて
強く大きく
なりんさい



山は好きか？
静助



お
おう



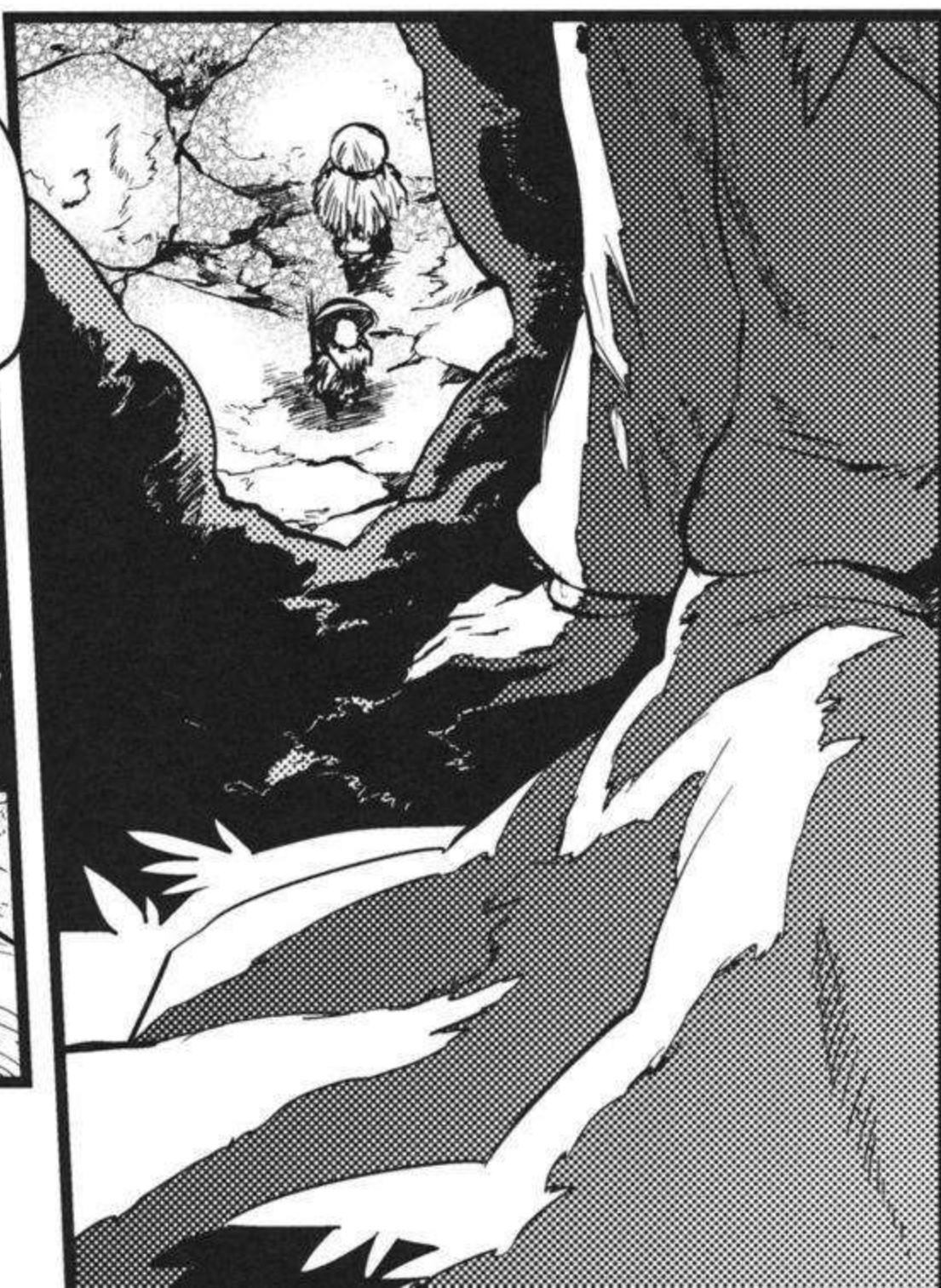
怖い
が好きじゃ



そうか



倅は
山に馴染まず
里へ降りたが
わしら獵師の
山の血は孫のお前に
親父の分も
継がれたようじゃ



静助
どうした？



うん

白帝
乃
壽

なんでもねえ



何度も言ったが



今日も山の糧をいただきありがとうございます
ございます



ヌシ殿



この山にヌシはもうおらん



しかし今日はいつになく豪勢だな静助

雉か

そりやあまあ
静葉殿に会って丁度十年ですし



それでも

いやそれだからこそ

わしらにとってヌシなのです

おツ母アの
三回忌でも
ありますし



そうか



すまなんだな
静助



臥せった時
なんとか
してやろうとは
したのだが

役立たずの
私なんぞに参った
おかげで母御の
今際にも立てな
かったのだから



あの里は
なにかが
おかしい

年々よう
わからん病で
死人が出とる



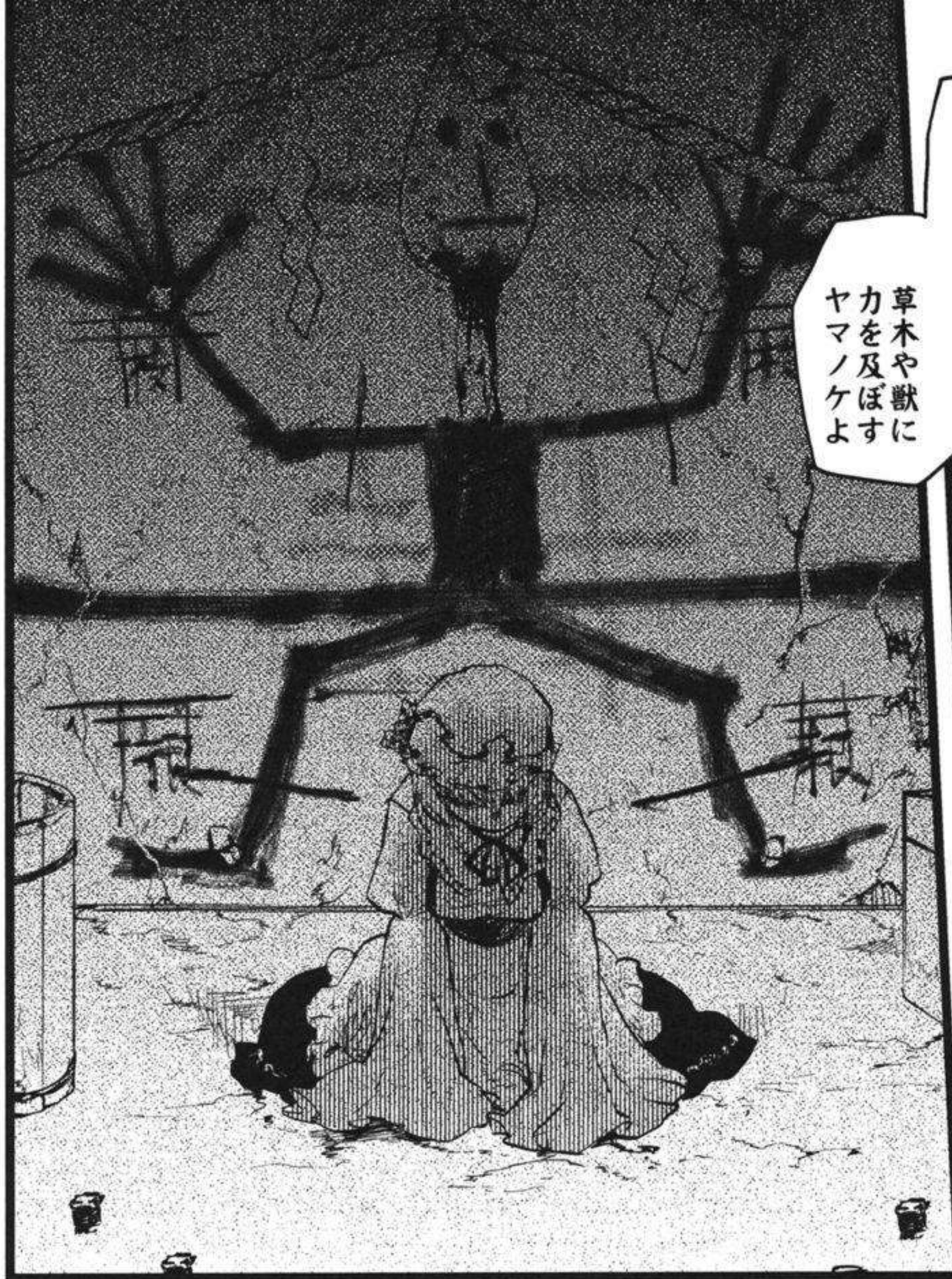
まるで



……まるで

呪われて
おるようだ





これは元来
山のヌシに
なるべくして
生まれたモノじゃ

草木や獣に
力を及ぼす
ヤマノケよ



これを山の土を
まぶした里の
土の上で飼い
：いや

植えて
育てるとな

山を活かす
気脈が里の
土に吸われる
ようになる

ヒヤリ



そこで

じゃが人里は
山の気が無い
からの

すぐに枯れよる

カ

都合良う
人んナリい
しちよるでな

村の若い衆の
まらを借りて
精を食わせるん
じゃ



せやが：
せつかく村の
子らと仲良うして
すがら瘦せた土地を
救うてくれとる
もんを



長よう

こいつらあ
人のおなごの
何倍も気まぐれで
何倍もやっかいな
もんじゃ



いつ牙を剥くか
そうでなくとも
いつふらりと消えて
恵みがなくなるか
わからんのだぞ



山の化の
指は枝葉じゃ
足は根じゃ

こうして縫えば
身体はここを御山と
間違えて力をこの
土地に使いよる



あとはあぶれた
男衆に好きに
遊ばせ

少々何をしても
死にはせん



あー今日も
良く働いた
働いた

おう新の字
今日もかい

おめえらこそ

一日働いて
飯食うて

一服したら
夜遊びじゃ

のう

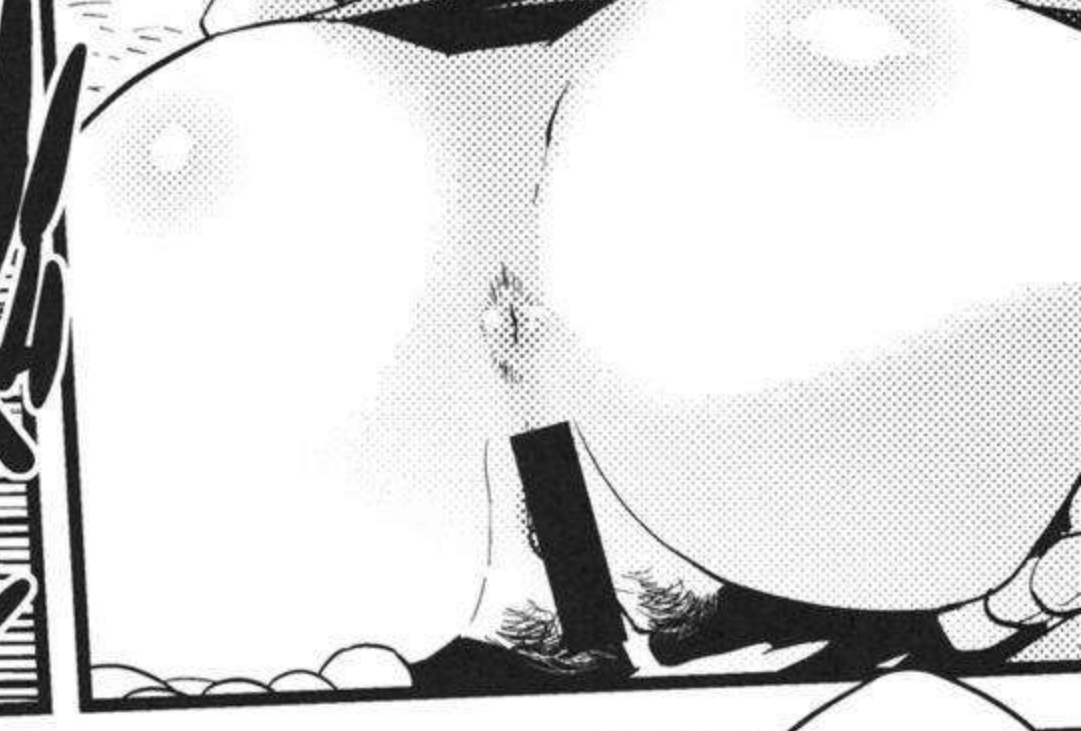


こないだ口に
突っ込むの
怖いから歯
抜いてやったが

もう元通りに
なっちよるわ



緩んだ女陰も
尻の穴切れた
も



もどしたモンで
咽喉を詰めても
心配いらんっつう
こった...っ





孕まんの
か
こいつは

ここに封じられて
いる間は草や木と
変わらんけややは
できんそうじや



次わし
次わし

縫い付けても
おるけなんも
動けんし
ヤリ難いの
難儀じやのが



つまらんのう
おい腰
持ち上げて
くれやあ



今日はあとで
糞でも食わして
みるか
肥やしじや

賽で負けたやつが
後始末じやな



切れた筋は
戻っても
この尻穴の
ねつとりと
こなれたのが
たまらんつ

ほんじや
またのお
ミノリサマ

たん
と
土い肥やして
くれやあ

瘦せた村は
次第に肥えた土と
芳醇な実りに
支えられ繁栄は
していったが

同時に

若くして命を
落とす者も
増えていった

ついに
あの術を知る者は
この土地を捨て

豊かになってゆく
村へ入って来る
者も多くそれほど
表立って目立ち
はしなかったが

以前から村に
いた生き残りは
気が気では無く

山を拓く事を
決めた

無作為に

無用心に

無計画に

ただ自分が汚した
土地の恩恵だけを
そのままに

今度は山を
汚し始めたのだ

すまん
静葉殿

なんごとか
わしらも行って
止めようと
したんじゃが

話を聞かん
どころか
どこか鬼気
迫っておって

何か必死に
追い立てられて
おるようだな

鉈を投げられた
殺されかねん

明日にでも
頭らと
長のところ
話に行こうと
思うんじゃが

そうか





お前の子が
欲しい



…そうか
私はな



おそらく
人の子として
産まれては
来るまい

で・て・に
お前の手元には
置く事はできない
だろう

お前に辛いと
想いをさせると
知っての私の
我侭だけど



それでも

ええん
じゃ!!



…ならば
せめて今だけ
でも隔てよう

私達だけの
世界を



ええ…
それでも
わしは



甘い
涼しい匂い



らららら
らららら

山の
秋の匂い



ずっと
こうしたかった



ばちが
あたるかのう

あぁ
言っ
て良
いの
か



ヒッ
ッ

あ
あ
ッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ
ヒッ

ヒッ



山の神様に
こんな事
して...

ん



お前が私を
この山の神と
呼ぶのなら

誰もお前に
ばちなぞ
当てられん

静助



好きだよ

静助



堪えられん



呪わしい
汚らしい
私



私は妖怪だ

妖怪は霞のように
そこに在るようで
そこに無いかも
しれないもの

それを確たるが
ものにするのが
名だ



お前は私に
名をくれた

しかも——
人間にとって
さしたる意味も
無いかもしれないが



自らの名の一部を
分け与えた名と
いうのは妖にとつて
特別なのだ

静助

ちゅっ



ちゅっ



幼いお前が
くれた静葉
の二文字



うわ...
射精し
ながら

犯咽喉奥
され
る...っ



あ
あっ
静葉殿っ



この名は
私の一生の
誇りだ



すみません
わしっ
今...

驚いた

おっとり
している
と
思ったら

ふふ

急に雄らしく
なるもの
だから

静葉殿

山の生気に
当てられ
いや

当てるから
か
も
ね

なんか
わし

おさまらん
のです…

ト
ッ

はっ

はっ

はっ

私ももう

おさまらない
ものだから



びおそ
つつん
くかな
りな



蛙あ
の歩
みり
か
つ
み
り
た
ら
く
り
さ
ど
れ
た
ら
く
り
ほ
さ
ど
れ
た
ら
く
り

否
が
応
で
も
お
な
が
か
の
な
あ
な
か
の



お
前
の
形
を
う
ち
や
う
味
な
い
か
：
じ



バッ



バッバッバッ



?



顔

見てほしい
です



ダメな顔っ

見せッ

ちぢぢ



そ
それは
少し困る...

絶対その
なんだ



奥くつりぐり
したまま
射精されたらう



やぶけ
ちや...

おなかの
子袋やぶけ
ちやうぶ



わたしは
あわせものだ

十分

名も
繫ぐ
命も貰った

はー

はー

静葉

静葉は元はあの
紅葉の木に木霊が
集まり生まれた
妖怪だ

だが宿つたのは
運悪く荒地の
痩せ衰えた木

生きるため
身に付けたのは
荒地で生きる
力強い周囲の自然から
命を集める力
命を奪う力

徐々に扱いに慣れた静葉は山の中で

命の強い場所から『寿命』を少しずつ奪い命の弱い場所へ移していた

ガッ

最初は身の回りから力をつけるたびにその範囲を広げ今は山を包むほどの範囲の



命に

な

なんじゃお前は

手が届く

お前ら

穢れを纏って
いるな

あ

あの髪
見てみい

あの土蔵の
山神と同じ
色じゃ

バカ!

シーツ

妖怪の仲間かも
知れんじやろが!



ガッ

そういう事か

その臭い穢れも
里の不幸も
異様な豊作も

みな外法に
手を染めた
結果か

それが

静助の母御を奪い
父御を狂わせ
里を壊した原因
なのだな

お前も

お前も

お前も

キッス





コッ

うらやまし

命を濃く
強くする力
まるで私と
正反対



お前が全ての
元凶か

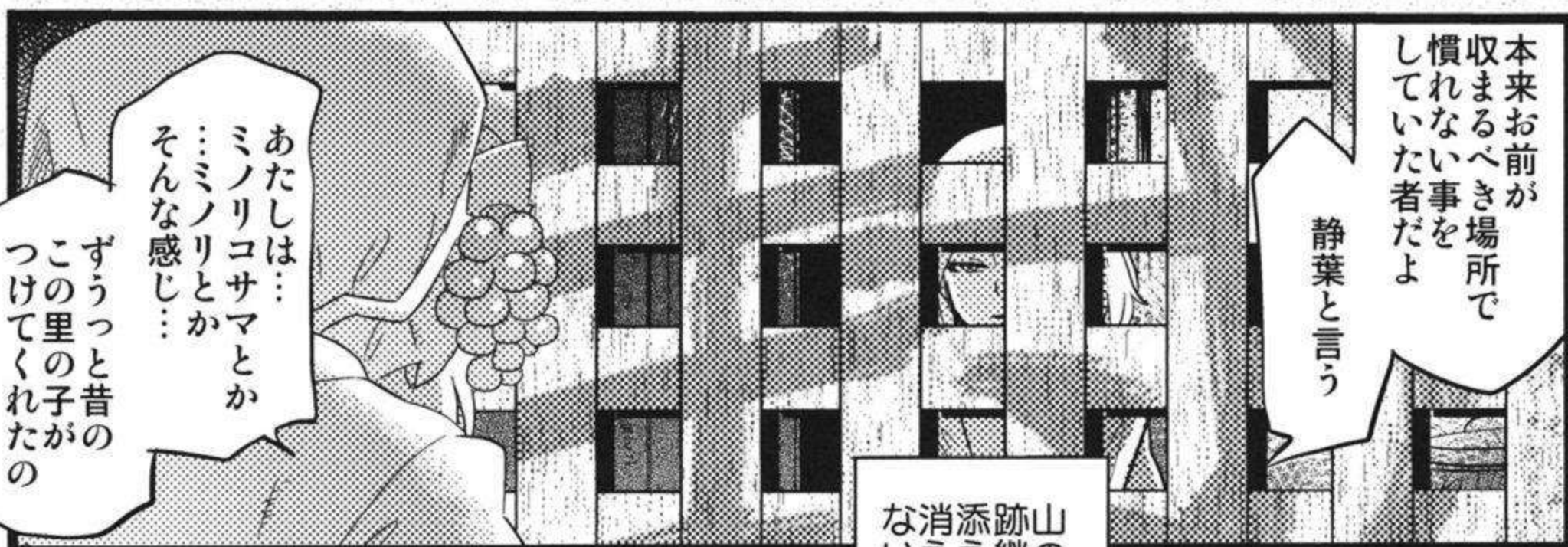
不用意に
人に近づき
過ぎたな



コッ

あなたは？

コッ



本来お前が
収まるべき場所で
慣れない事を
していた者だよ

静葉と言う

山の又シが
跡継ぎも
添えぬまま
消えるわけが
ない



あたしは：
ミノリコサマとか
：ミノリとか
そんな感じ：

ずうっと昔の
この里の子が
つけてくれたの



いい名前

しかし
どうしたものか



御山の又シを
継ぐ合間を
狙われて
封じられたか

性根は腐っても
力のある術者の
張った縛鎖

物の怪の
私では：







わしらは
何もやつと
らん!

わしらは



びっ
びっ

へた

あ
わ
わ



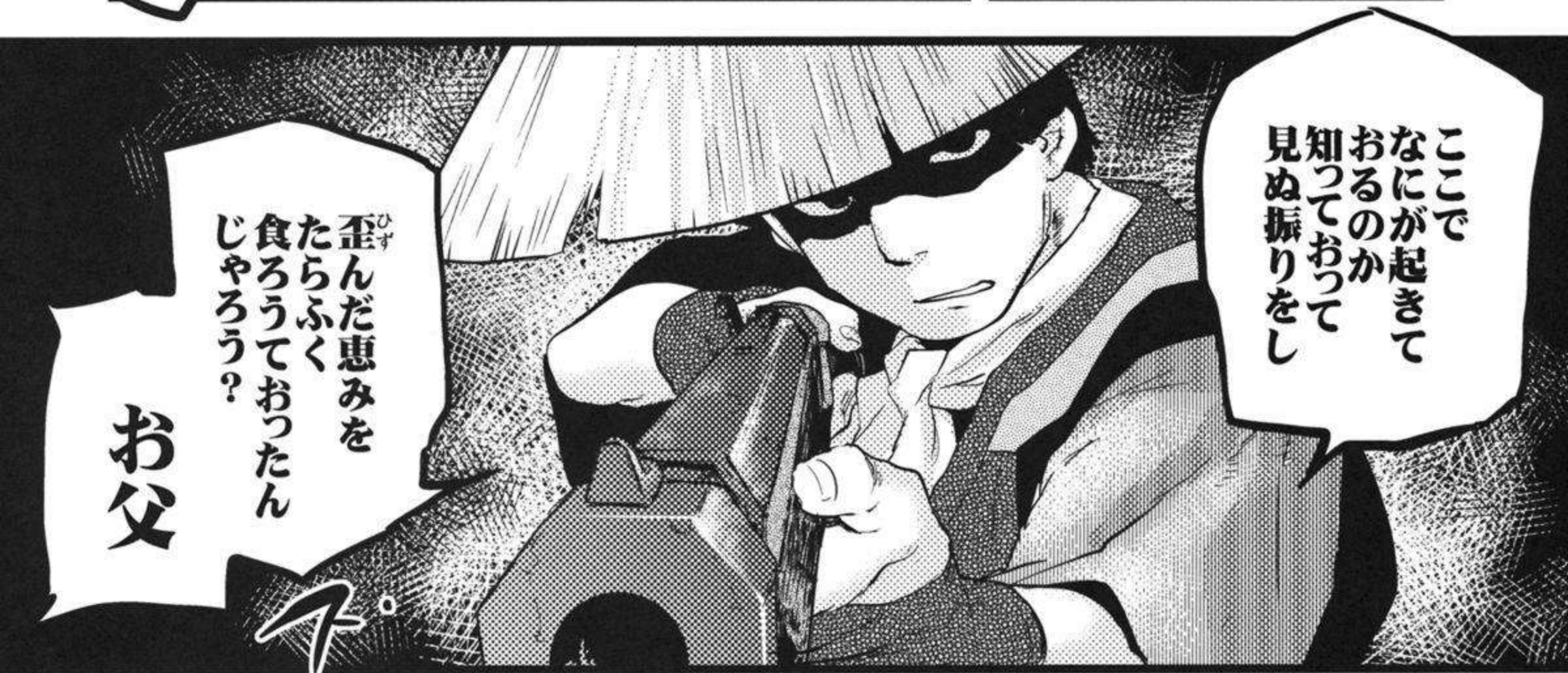
助けてくれ!

わしらは
この蔵へは
一度も!!

やが

びっ

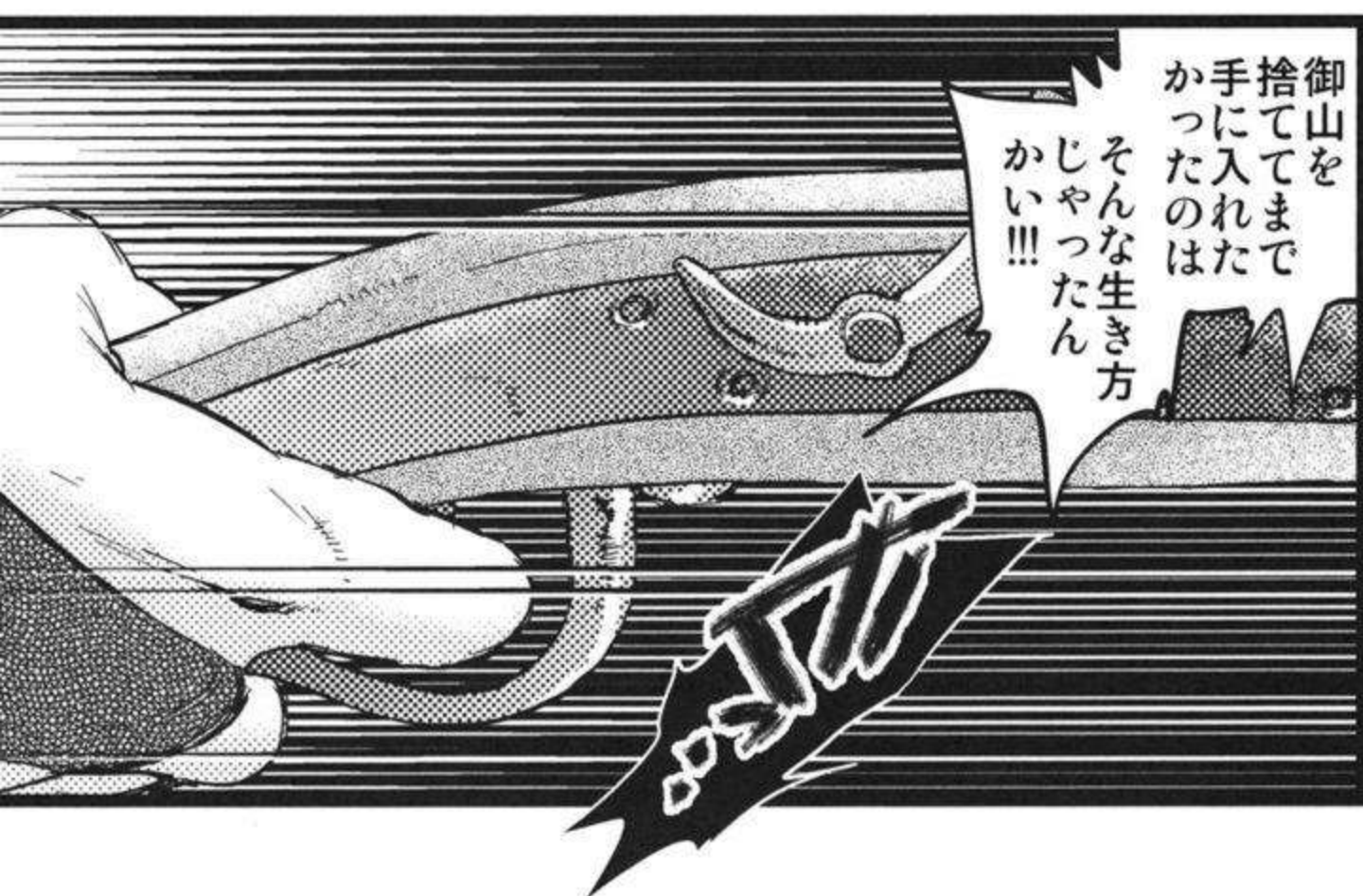
びっ



ここで
なにが起きて
おるのか
知つておつて
見ぬ振りをし

歪ひずんだ恵みを
たらふく
食ろうておつたん
じやろう?

お父



御山を
捨ててまで
手に入れた
かったのは
そんな生き方
じゃつたん
かい!!!



せつ
静助か!?

チャッ



やめい
静助



それは人を
撃つては
ならんもの

ましてや
相手は仮にも
父親

こんなことで
穢れてはならない

この里の
事ならば
ちやあんと

代わりに私が

悲しむからゆえ



良いの？

この土地に
残りの力の
殆どを注ぐ
なんて

いつまでもつか
わからぬけど
しばらくはまた
この土地は
豊かだと思ふ

何も知らず
飢えに怯え
子供らを食わそうと
流れてきた人達に
罪は無いもの

懲りない
奴だない

ふふ

そうやって
並んで
おられると

まるで姉妹の
ようですね

ええ？

てて
父御の様子は
どう？

しばらくは
怯えて飯も
咽喉を通らん
ようでしたが
今は畑に
出ておりますよ

さすがに
懲りたで
しょう

……
やはり
行かれるのか



多分あなたのお母さんをお殺したの私たちがだもの



それに

山の呪いは女の人のほうが強く現れる



これだけ土地が乱れてしまつては一度空にして治るのを待つしかない
そうなつては私達はむしろ邪魔だからな



静助

私達二人は人と交わり人を崇つた穢れ神として伝えるんだ

そして二度と山の化を道具にするような外法に縋らぬよう山も里も正しく生きて欲しい



さらばだ

稔子が残った力で
貧しい山に命を与え
力強い土と
数多の命を芽吹かせる

静葉が弱く小さな
若木の寿命を僅かに
喰らい老わせる事で
大人の木へと成長
させる

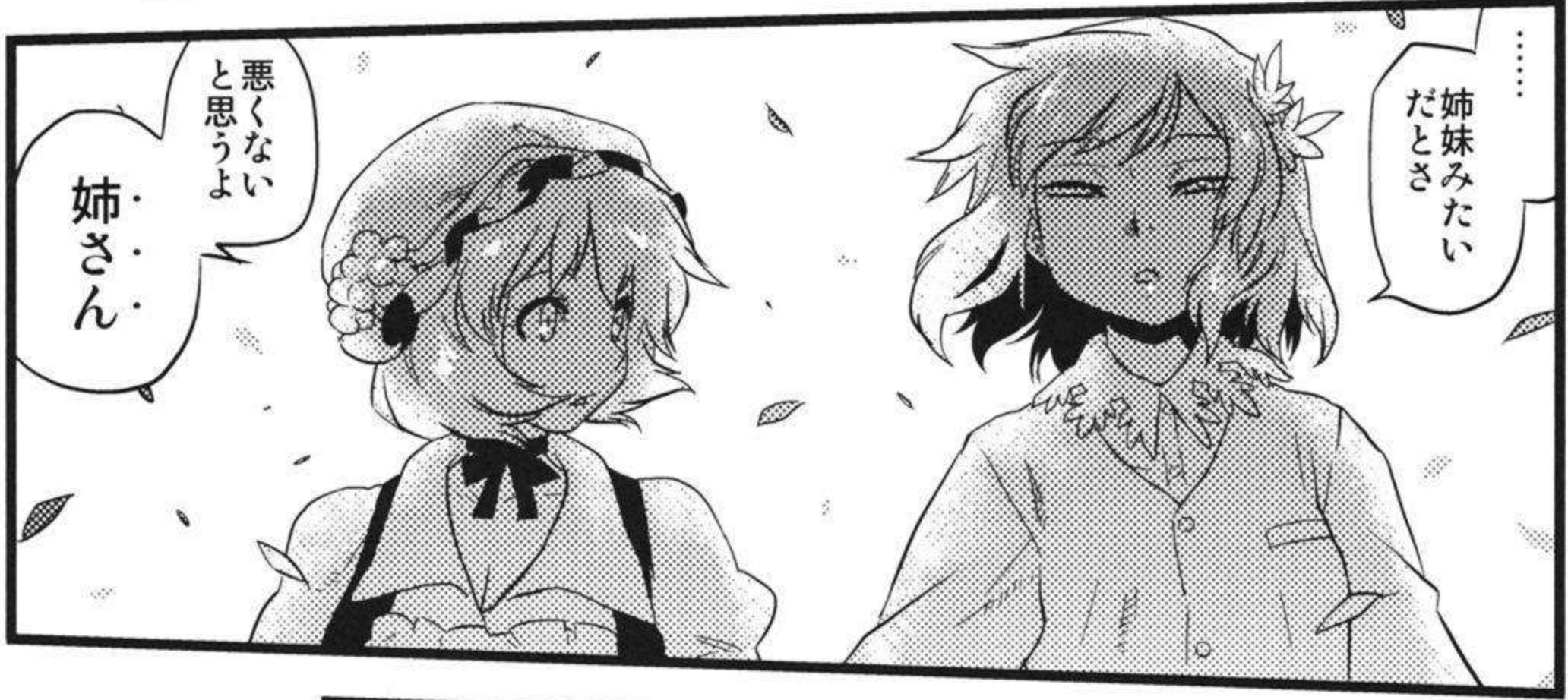


そして喰らった
命を再び稔子へと
戻すのだ

……
姉妹みたい
だとさ

悪くない
と思うよ

姉さん



まあ
確かに

悪いなんて
思わないけど

静助と静葉の
子がどこぞの
山のヌシとなり

子を産み
種を飛ばして
その内の一人が



永く又シの
居なかつた
静助のいた山に
又シとして
渡つて来るのは

ずっとずっと

人の命が何度か
廻ったくらい
後の話である

あき？

そう！
私達が出会って
姉妹になった
場所！

姉妹って
家族でしよう？
そろそろ苗字も
つけようと
思ってます！

ずっと考えて
いたんだよ

安芸の地

そう：
では終に実り
そして枯れ行く
終わりと
始まりの時

まるで
私達のような

秋と変じて
名乗りましょう

もうあの里が
どうなったのか
幻想郷の中では
窺い知ること
出来ないけれど

まるでこの名は
あの地と繋がって
いるよう

姉さん？

ん？

こっちに来て
ようやく力も
少し戻って
来たことだし

そろそろいつちよ
人里へ降りて
みましようよ

実りの秋！
紅葉の秋！！

ふふ

そうね

山の神様
秋姉妹の
御降臨と
いきますか



あー…やっぱり、私が姉かあゝ
そりゃまーそーだよねえー…
外見的にはさー…でもなー…
実年齢はぶっっちゃけ穂子の方が
上っぽいんだけどなゝ…

発行 急行兎

URL <http://rapidrabbit.jp/>

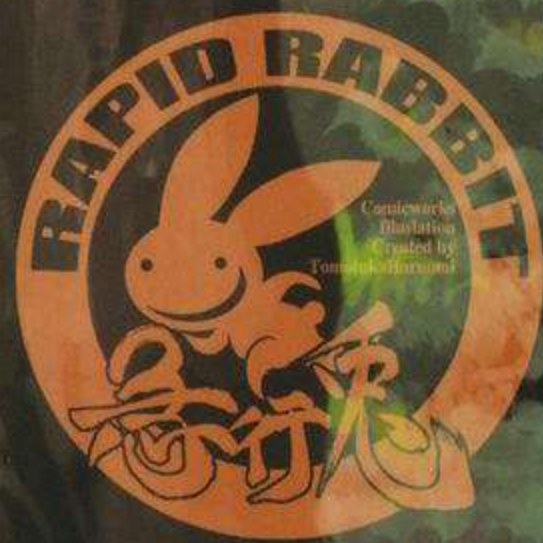
Pixiv <http://www.pixiv.net/member.php?id=230418>

発行者 ともつか治臣

2013/08/11 初版発行

無断転載等を禁止します
乱丁などありましたら
ご連絡ください

ご愛読ありがとうございました。



原作 東方project

製作 急行兔